

平成23年度業務実績に係る 評価シート説明資料

独立行政法人国立成育医療研究センター

目 次

資料番号	名 称	ページ
資料 1	研究所と病院が連携するための会合等の共同開催数	1
資料 2	病院・研究所の新規共同研究数	6
資料 3	共同研究承認課題一覧	8
資料 4	治験基盤整備事業（小児治験ネットワーク）業績	10
資料 5	研究所におけるフェロー等の名称について	18
資料 6	職務発明届出・審査状況一覧	20
資料 7	倫理委員会・IRB開催状況一覧	22
資料 8	臨床研究に関する倫理方針の研修会受講状況	24
資料 9	超音波診断装置の高精細化について	26
資料 10	産科実践ガイド	28
資料 11	成育すこやかジャーナル	32
資料 12	児童虐待防止医療ネットワーク構築に対する経済的支援に関しての要望	34
資料 13	妊娠と薬情報センター活動報告	37
資料 14	妊娠初期のチアマゾール投与に関する注意喚起について	48
資料 15	セカンドオピニオン実績	53
資料 16	MSW患者・家族相談窓口業務実績報告	56
資料 17	多職種（四職種以上）が参加するカンファレンス一覧	58
資料 18	インシデント・アクシデント集計資料	60
資料 19	医療安全研修等開催状況	75
資料 20	医療安全ポケットマニュアル	77
資料 21	eラーニング受講状況	82
資料 22	子どもの心の診療拠点病院事業ホームページ	84
資料 23	「子どもの心の診療におけるコメディカルの役割」研修会	92
資料 24	教育研修部	94
資料 25	モデル研修等実施一覧	104
資料 26	センター外の医療従事者等に向けた各種研修・講習会等一覧	107
資料 27	災害（地震）対応マニュアル	111
資料 28	東日本大震災におけるセンターの活動状況	115
資料 29	組織改組の目的	121
資料 30	事務部門の組織変更について	126
資料 31	経営の改善	129
資料 32	無作為モニタリング監査関係	142
資料 33	契約監視委員会の審議概要	146
資料 34	コンプライアンスホットライン	153
資料 35	寄付の受け入れについて	156
資料 36	基本給表等別男女別職員数	159
資料 37	平成24年度の増員等について	161
資料 38	常勤職員公募一覧	167
資料 39	病棟再編関係	169
資料 40	アクションプラン関係	193

研究所と病院が連携するための 会合等の共同開催数

研究所と病院が連携するための会合等の共同開催数【平成23年度】

	開催日	主催者又は講師所属(職名)	講師氏名	会議名または演題
1	H23. 4. 8	国立循環器病研究センター研究所・生体医工学部・部長	山岡 哲二	幹細胞移植療法を目指した新しいバイオマテリアル
2	H23. 4. 19	アレルギー科・免疫アレルギー研究部	野村 伊知郎 松本 健治	第1回合同研究戦略会議
3	H23. 4. 25	自然科学研究機構基礎生物学研究所 遺伝学部門・助教	佐藤 昌直	ネットワーク生物学：実験・数理モデリングの統合とその応用
4	H23. 4. 28	北海道大学遺伝子病制御研究所免疫制御分野・教授	西村 孝司	ロングペプチドがんワクチン、H/K-HELPの第一相臨床研究：がんワクチンによるTh1免疫の誘導と抗腫瘍効果の検証
5	H23. 5. 9	分子内分泌研究部長	緒方 勤	成育医療における臨床・分子遺伝学
6	H23. 5. 12	財団法人実験動物中央研究所 実験動物研究部・部長	伊藤 守	NOGマウスの紹介とヒト化マウス
7	H23. 5. 26	Stowers Institute for Medical Research	青戸 一司	プロテオーム解析から見出した新規Hedgehog (Hh) signaling関連分子、AKAP11の脳発生過程での役割
8	H23. 5. 31	免疫アレルギー研究部長	松本 健治	なぜ研究をするのか？
9	H23. 6. 8	G蛋白質Rhoを介したRNA凝集体P-bodyの制御機構	高橋 真也	UCLA and HHMI, Douglas L. Black lab, Postdoctoral Fellow
10	H23. 6. 21	感染症科医長	齋藤 昭彦	世界標準の小児感染症の診断と治療を目指して ―成育医療研究センターの現状と課題―
11	H23. 6. 30	東京大学名誉教授 ECI名誉会長	金ヶ寄 史朗	ガンと炎症性疾患の画期的治療法の開発を目指して
12	H23. 6. 30	慶應義塾大学医学部	中江 淳	メタボリックシンドローム～小児期からの予防・治療に向けての基礎研究の重要性～
13	H23. 7. 10	分子内分泌研究部臨床内分泌研究室長	深見 真紀	成育期内分泌疾患の分子遺伝学的解析～病態生理の解明と医療・社会へのフィードバック～
14	H23. 7. 21	幹細胞・生殖学研究室長	阿久津 英憲	ES/iPS細胞の話をしよう！ ―僕たちはまだ君（幹細胞）の全てを知らない；遠そうで近い、近そうで遠い応用へ向けて―
15	H23. 7. 22	福井大学医学部分子生体情報学領域・教授	宮本 薫	ステロイドホルモン合成関連遺伝子群の新たな発現調節機構 ―幹細胞分化誘導から見てきたもの―

研究所と病院が連携するための会合等の共同開催数【平成23年度】

	開催日	主催者又は講師所属(職名)	講師氏名	会議名または演題
16	H23. 7. 25	埼玉医科大学ゲノム医学研究センター	加藤 英政	疾患とエピジェネティクス
17	H23. 7. 27	システム発生・再生医学研究部ゲノム機能研究室長	高田 修治	胎児の発生・発育の分子生物学的解析と成育疾患の原因解明に向けて
18	H23. 8. 26	産業技術総合研究所	松本 吉央	アンドロイドと医療との接点
19	H23. 9. 13	産業技術総合研究所 人間福祉医工学研究部門 治療支援技術グループ 研究グループ長	鎮西 清行	新しいデバイスを患者さんに役立てるために：未承認医療機器の関係する臨床研究における、研究者と企業人が知っていたい関連規則
20	H23. 9. 16	岡山大学大学院 医師薬学総合研究科 細胞生物学分野・講師	片岡 健	REIC/Dkk-3遺伝子治療 ～小胞体ストレスを介した多彩な抗腫瘍効果～
21	H23. 10. 6	感染防御研究室長	今留 謙一	ウイルスとヒトの知恵比べ ～EBウイルスを例にとって～
22	H23. 10. 14	慶應義塾大学総合医科学研究センター 特任講師	小林 一也	プラナリアにおける無性生殖から有性生殖への転換現象 ー分化多能性幹細胞を生殖細胞にする薬を求めて
23	H23. 10. 17	群馬県立小児医療センターアレルギー感染免疫科	山田 佳之	好酸球性炎症とその疾患
24	H23. 10. 18	アレルギー科・免疫アレルギー研究部	北沢 博 海野 浩寿	第2回合同研究戦略会議
25	H23. 10. 18	免疫アレルギー研究部	松田 明生	成育医療におけるアレルギー疾患研究：これまでの取り組みと今後の展望
26	H23. 10. 19	免疫アレルギー研究部	大保木 啓介	新しいアレルギー性炎症誘導メカニズム研究と成育医療への貢献
27	H23. 10. 19	免疫アレルギー研究部	野村 伊知郎	重症アレルギー疾患の病態、発症リスク因子解明および治療法開発について
28	H23. 10. 20	独国Paul-Ehrlich-Institute	戸田 雅子	Successful strategies for allergen-specific immunotherapy
29	H23. 10. 26	東京大学医科学研究所	中江 進	IL-17ファミリーとアレルギー
30	H23. 11. 2	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター・研究員	荒巻 敏寛	神経外胚葉のパターン形成において JiraiyaはII型BMP受容体を阻害することによりBMPシグナル伝達を減弱させる

研究所と病院が連携するための会合等の共同開催数【平成23年度】

	開催日	主催者又は講師所属(職名)	講師氏名	会議名または演題
31	H23. 11. 14	Children's Hospital Boston Scientific Research Associate Division of Immunology	Michiko K. Oyoshi	Immunological Consequences of Filaggrin Deficiency in the Skin
32	H23. 11. 17	新宿海上ビル診療所 理事長	西元 慶治	N-Program : アメリカ臨床留学の道
33	H23. 11. 21	Professor and Associate Chair, Department of Pediatrics, University of Miami Miller School of Medicine	Dr. Daniel Armstrong,	Neurocognitive late effects: Risks associated with treatment of acute lymphoblastic leukemia
34	H23. 11. 21	アレルギー科・免疫アレルギー研究部	加藤 厚 正田 哲雄	第3回合同研究戦略会議
35	H23. 11. 24	首都大学東京 人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域・特任助教	井上 菜穂子	Imaging mass spectrometryを用いた生体分子イメージング
36	H23. 11. 28	薬剤治療研究部室長	山内 淳司	「神経変性症をグリア細胞から治療する」という新しい創薬研究
37	H23. 11. 30	自治医科大学医学部薬理学講座環境毒性学部門・助教	三瀬 名丹	ES細胞とEG細胞の相似点 t p 相違点から考えるエピジェネティック制御
38	H23. 12. 5	米国医薬品食品庁 副長官	スティーブ P スピルバーグ	小児科領域における個別化医療の臨床実践
39	H23. 12. 13	アレルギー科・免疫アレルギー研究部	北沢 博 松田 明生 他	第4回合同研究戦略会議
40	H23. 12. 19	分子内分泌研究部	鏡 雅代	成長障害・先天奇形症候群の病態解明と成育医療への貢献
41	H23. 12. 20	カリフォルニア大学デービス校アシスタントプロフェッサー	佐竹 典子	Targeted Nanotherapeutics for Childhood Malignancies
42	H24. 1. 23	アレルギー科・免疫アレルギー研究部	堀向 健太 松本 健治	第5回合同研究戦略会議
43	H24. 1. 24	インペリアル カレッジ ロンドン教授	高田 正雄	Ventilator: friend or foe? What has translational research taught us.
44	H24. 1. 25	母児感染研究部長	藤原 成悦	感染症研究とヒト化マウス
45	H24. 2. 17	埼玉医科大学産科婦人科	石原 理	世界の生殖医療の最新動向

研究所と病院が連携するための会合等の共同開催数【平成23年度】

	開催日	主催者又は講師所属(職名)	講師氏名	会議名または演題
46	H24. 2. 21	アレルギー科・免疫アレルギー研究部	正田 哲雄 松本 健治	第6回合同研究戦略会議
47	H24. 2. 23	加藤レディスクリニック副院長	竹原 祐志	生殖医学と幹細胞
48	H24. 2. 24	理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター	遠藤 充浩	クロマチン制御因子ポリコーム群によるマウス初期胚幹細胞の制御
49	H24. 2. 24	分子内分泌研究部長	深見 真紀	「日常診療における小さな疑問」からはじめる分子遺伝学研究
50	H24. 2. 27	伊国Padua大学Stefano Piccolo Laboratory	乾 雅史	筋骨格系の組織形成におけるTGF β シグナルの分子メカニズムの解明と成育疾患の再生医療へ向けて
51	H24. 2. 29	国際母子保健研究所	森 臨太郎	成育医療・保健における政策策定と評価の新たな枠組みに向けて
52	H24. 2. 29	総合診療部小児期診療科医師	前川 貴伸	ラオス人民民主共和国における国際医療協力の今までと、これから
53	H24. 3. 2	臓器移植センター長 内分泌・代謝科医長	笠原 群生 堀川 玲子	タンデムマス・スクリーニングで発見された患児の治療
54	H24. 3. 13	国立循環器病研究センター 研究開発基盤センター長 研究所副所長	妙中 義之	医療機器開発・製品化の今後の展望 ～日本の技術を、命のために～
55	H24. 3. 22	島田療育センターはちおうじ所長	小沢 浩	痙性麻痺早期発見の観察ポイント
56	H24. 3. 27	アレルギー科・免疫アレルギー研究部	野村 伊知郎 松本 健治 他	第7回合同研究戦略会議
計 56 件				

病院・研究所の新規共同研究数

病院・研究所による新規共同研究数【平成23年度】

No	研究課題名	所属	代表者	病院或いは研究所 における共同研究者
1	妊娠とその後の女性の生活習慣病発症に関する母子健康手帳を用いた研究	母性医療診療部 代謝・内分泌内科	荒田 尚子	坂本 なほ子
2	アトピー性皮膚炎のステロイド外用剤治療への養育者の不安に関する調査研究	生体防御系内科部 アレルギー科	二村 昌樹	野村 伊知郎
3	ライソゾーム病(リソソーム病)の病態解明と治療法の開発	再生医療センター 生殖・細胞医療研究部	梅澤 明弘	奥山 虎之
4	性分化疾患・性成熟疾患における遺伝的原因の探索	分子内分泌研究部	深見 真紀	横谷 進
5	小児慢性特定疾患治療研究事業 非継続症例に関する転帰調査 ～平成21年度慢性呼吸器疾患群調査～	病院	松井 陽	加藤 忠明
6	眼科手術検体由来細胞の遺伝子解析	再生医療センター 生殖・細胞医療研究部	梅澤 明弘	東 範行
7	先天奇形症候群における遺伝的原因の探索	分子内分泌研究部	深見 真紀	横谷 進
8	成長障害における遺伝的原因の探索	分子内分泌研究部	深見 真紀	横谷 進
9	新生児肺発達障害の発症機序の解明とその予防・治療法の開発	周産期センター 新生児科	藤永 英志	梅澤 明弘
10	ASQ (Ages & Stages Questionnaires)日本語版の開発に向けての予備調査	成育社会医学研究部	坂本 なほ子	橋本 圭司
11	成人ダウン症者の退行症状に関する横断調査 ー北海道内施設を対象とした予備的横断調査(追加調査)ー	臨床検査部	奥山 虎之	掛江 直子
12	レリーワイル症候群の臨床症状に関する調査研究	分子内分泌研究部	深見 真紀	関 敦仁
13	WeeFIMとBayleyIII日本版に関する探索的研究	発達評価センター	橋本 圭司	坂本 なほ子
14	HBV母子感染予防における児のHBs抗体維持のためのガンマグロブリン投与 方法およびワクチン接種プロトコルの検討	母性医療診療部 膠原病・一般内科	山口 晃史	瀧本 哲也
15	アレルギー疾患における遺伝要因の探索研究	生体防御系内科部 アレルギー科	大矢 幸弘	斎藤 博久
16	先天奇形症候群および成長障害疾患関連遺伝子の肝芽腫発生への関与 の検討	分子内分泌研究部	鏡 雅代	小崎 里華
17	仙骨部に発生した脊髄くも膜嚢胞の遺伝的要因研究	臓器・運動器病態外科部 脳神経外科	荻原 英樹	清河 信敬
18	「児童養護施設における被虐待児の心身の健康指標に関するパイロット研究 (10代のこころとからだ調査)」	成育社会医学研究部	藤原 武男	奥山 真紀子
19	「子どもの発達障害とこころの問題に対する親の気づきと受診までのタイム ラグの要因に関する横断的および質的研究-その1(3歳児健診調査)」	成育社会医学研究部	藤原 武男	奥山 真紀子
20	小児腫瘍の多層的分子解析	小児血液・腫瘍研究部	清河 信敬	森 鉄也
21	先天性サイトメガロウイルス感染症とToll-like receptorなど自然免疫に関する 遺伝子の遺伝子多型の相関に関する研究	母児感染研究部	中村 浩幸	伊藤 裕司
22	免疫機能異常症における遺伝的要因の探索	成育遺伝研究部	小野寺 雅史	澤 新一郎
23	先天性甲状腺機能低下症における遺伝的要因の探索	分子内分泌研究部	深見 真紀	堀川 玲子
24	小児腫瘍の網羅的ゲノム解析研究	小児血液・腫瘍研究部	清河 信敬	森 鉄也
25	乳児アトピー性皮膚炎患者を対象とする卵アレルギーの発症予防研究	生体防御系内科部 アレルギー科	大矢 幸弘	斎藤 博久
26	小児期発症1型糖尿病における遺伝的素因の探索	分子内分泌研究部	深見 真紀	堀川 玲子
		計 26 件		

共同研究承認課題一覧

平成23年度共同研究承認課題一覧

番号	契約期間		申請者	所属部署	職名	課題
1	2011年4月1日	2013年3月31日	浅原 弘嗣	システム発生・再生医学研究部	部長	マイクロRNAを標的とした新規OA治療薬の開発とノイロトロピンの遺伝子制御を介した作用機序の解明に関する研究
2	2011年4月1日	2014年3月31日	梅澤 明弘	生殖・細胞医療研究部	部長	ヒトips細胞由来モデル肝細胞の作製及びモデル細胞を「用いた薬剤毒性評価技術の構築
3	2011年4月1日	2012年3月31日	田上 昭人	薬剤治療研究部	部長	マイクロ空間細胞培養プレートを用いたヒト肝細胞培養法の確立、及び、薬物スクリーニング用途を目指した培養評価系の開発
4	2011年4月1日	2012年3月31日	松本 健治	免疫アレルギー研究部	室長	新生児乳児消化管アレルギーにおけるアレルギー特異的抗体の役割に関する研究
5	2011年4月1日	2012年3月31日	阿部 淳	免疫アレルギー研究部	室長	ガンマグロブリン受容体を介した免疫制御療法の機序の解明
6	2011年4月1日	2012年3月31日	田上 昭人	薬剤治療研究部	部長	ヒト肝細胞を用いた創薬及び肝疾患・病態に関する基礎研究
7	2011年4月1日	2012年3月31日	浅原 弘嗣	システム発生・再生医学研究部	部長	自己免疫疾患、アレルギー疾患の治療を目的としたヘルパーT細胞の分化にかかわる因子の探求
8	2012年3月31日	2013年3月31日	大矢 幸弘	内科系専門診療部アレルギー科	医長	乳幼児のアトピー性皮膚炎の治療と予防を目指した皮膚内物質の研究
9	2011年4月1日	2012年3月31日	阿久津 英憲	生殖・細胞医療研究部	室長	ヒト幹細胞産業応用促進基盤技術開発／ヒト幹細胞実用化に向けた評価基盤技術の開発 ＊幹細胞自動凍結・解凍装置の開発
10	2011年4月1日	2013年3月31日	阿久津 英憲	生殖・細胞医療研究部	室長	ヒトPS細胞培養のインテリジェンスデバイス開発研究
11	2011年8月25日	2012年3月31日	千葉 敏雄	臨床研究センター	副センター長	レーザーチャネル付細径3D内視鏡(斜視鏡)技術および装置
12	2011年11月1日	2012年10月31日	浅原 弘嗣	共同研究員	客員部長	核酸による関節炎治療の検討
13	2012年2月10日	2012年7月1日	野坂 俊介	放射線診療部	医長	①乳幼児撮影に対する間接変換型FPDシステム(X線画像撮影装置)による撮影プロトコルの最適化 ②乳幼児撮影に対する一般撮影検査の線量指標標準決定
14	2012年2月10日	2012年7月1日	松本 健治	免疫アレルギー研究部	部長	アレルギー疾患に係るコホート研究プロジェクト
15	2011年10月1日	2012年9月30日	賀藤 均	器官病態系内科部	部長	4D-MRIの技法を用いた先天性心疾患症例の血行動態の解析
16	2011年8月1日	2013年7月31日	田上 昭人	薬剤治療研究部	部長	ヒト肝型マウスを用いた肝胆道疾患の病態解明及び新規治療法の開発研究
17	2011年10月1日	2012年9月30日	千葉 敏雄	臨床研究センター	副センター長	HEED-HARPカメラの内視鏡用医療機器への応用研究
18	2011年11月1日	2016年3月31日	高田 修治	システム発生・再生医学研究部	部長	細胞シグナルや発生分化における分子局在の変動のシステム解析
19	2012年3月1日	2014年3月31日	絵野沢 伸	臨床研究センター	室長	微弱電子による酸化ストレス慢性肝炎の治療に関する研究
						計 19 件

治験基盤整備事業（小児治験 ネットワーク）業績

治験基盤整備事業（小児治験ネットワーク）

－目的－

- ▶ 小児領域における医薬品・医療機器の充実・拡大を図り、日本における小児医療の向上に寄与する
- ▶ よりよい薬・機器をより早く子どもたちに届ける
 - ✓ 小児医薬品開発の受け皿としての機能
 - ✓ 小児医薬品の適正使用のための活動



治験基盤整備事業（小児治験ネットワーク）



小児治療ネットワーク加盟施設の状況

▶ 27施設が加盟



約5,500病床を持つネットワーク

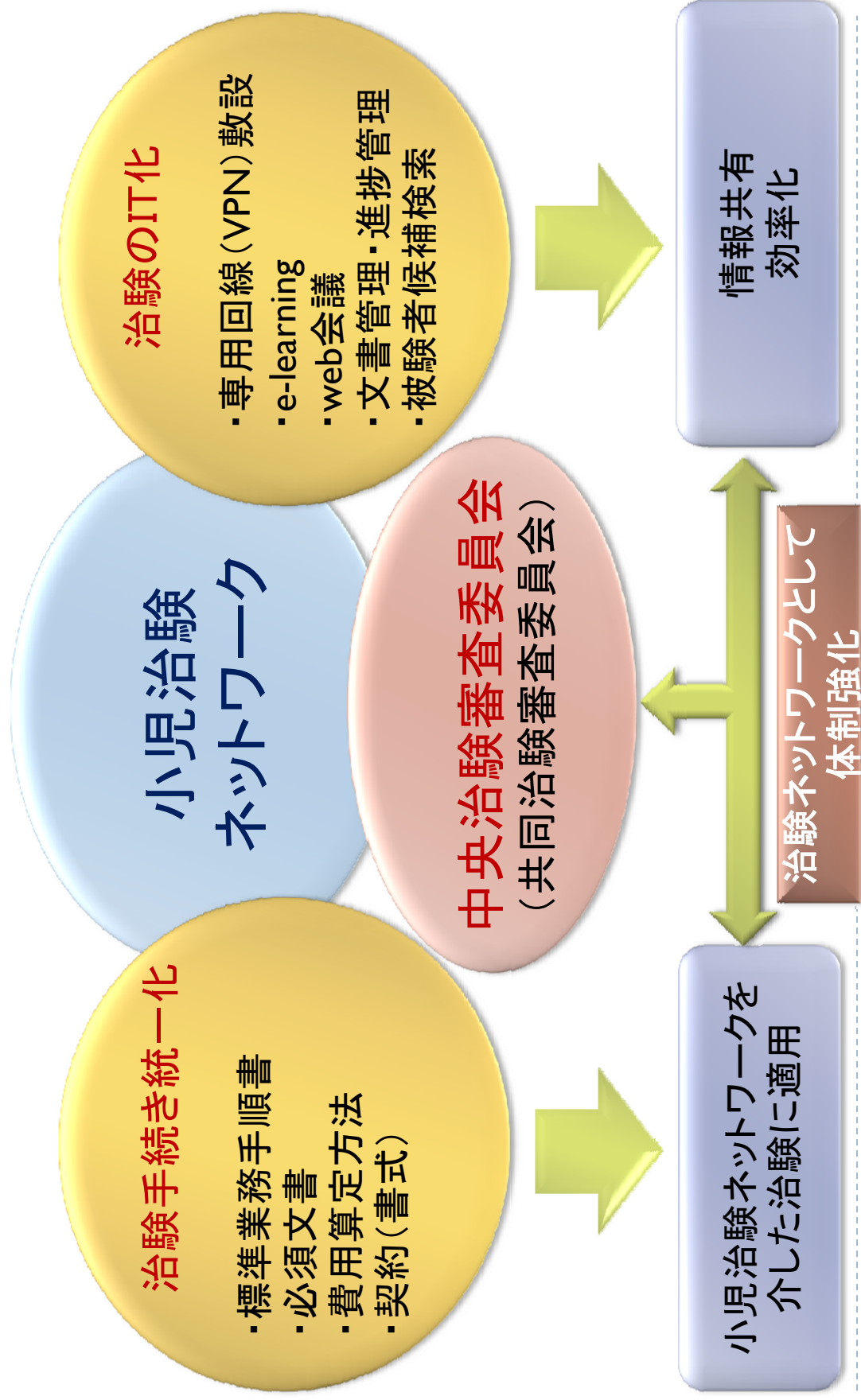
- ・小児病院・・・16施設
- ・大学病院・・・4施設
- ・NHO病院・・・3施設
- ・総合病院・・・4施設

＊平成24年4月に3施設が
新規加盟



小児治療ネットワークの活動

ー中央事務局による一元管理ー



小児治験ネットワークの活動

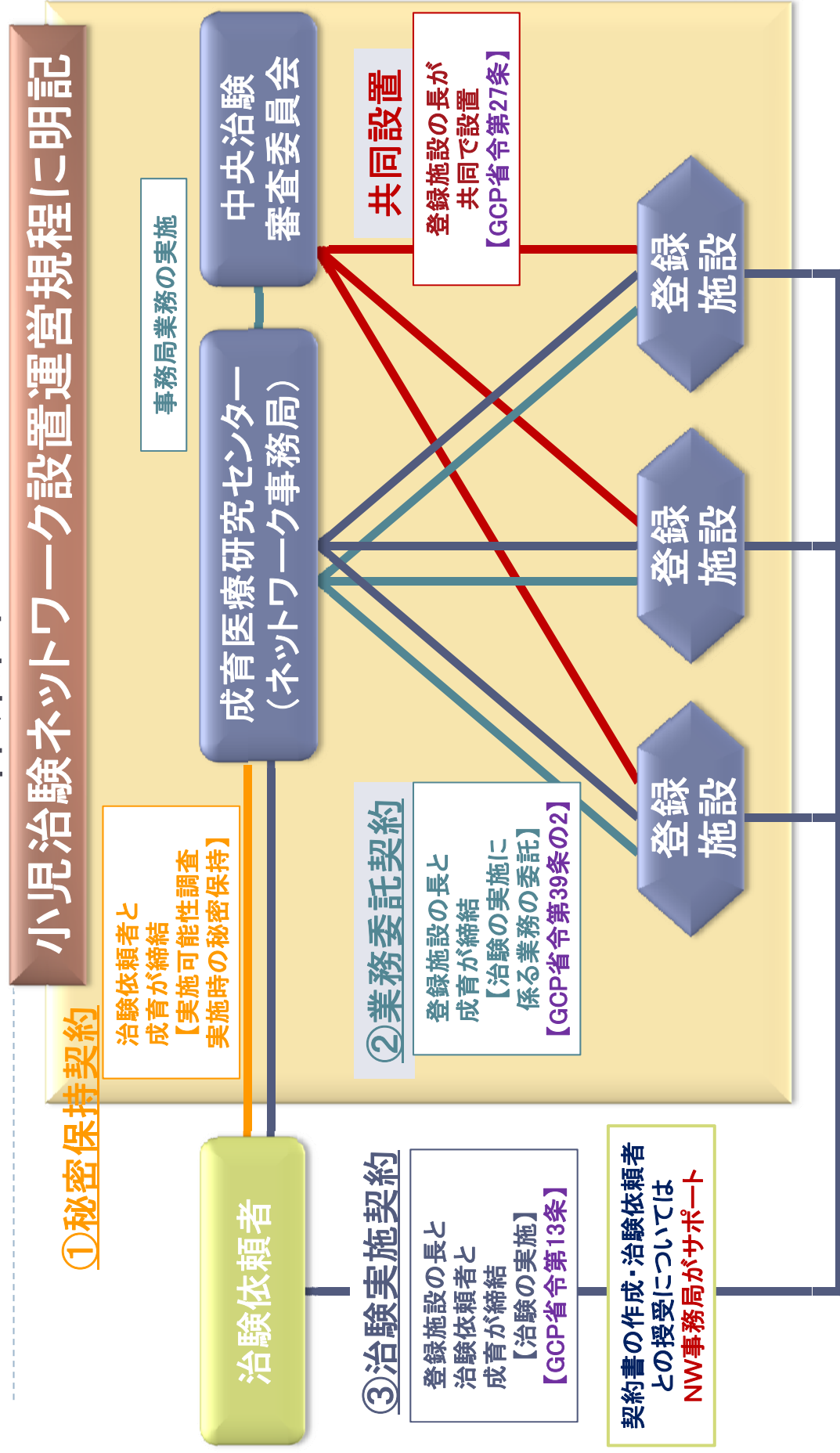
一 治験情報の一括管理、活用一

- 加盟施設の治験実施体制、実績等の情報を収集し、「小児治験ネットワークポータルサイト」に一括掲載



小児治験ネットワークの活動

— 体系図 —



小児治験ネットワークの活動

－中央治験審査委員会の設置－

＜設置形態＞

加盟施設の長が共同で設置する

「**共同治験審査委員会**」として設置

＜GCP省令第27条第1号の適用＞

- ・開催場所：国立成育医療研究センター
- ・開催頻度：毎月開催
- ・委員数：12名程度

＜委員の選定＞

2) **非専門、外部委員** (4～8名程度)

- ① 日本小児総合医療施設協議会事務部長部会長
- ② 倫理、法律、初等教育専門家
- ③ その他

中央治験審査委員会
【平成24年7月】
(新規審査開始)

＜委員の選定＞

1) **専門委員** (7～8名程度)

① 医師 (5～6名)

加盟施設から小児科医師等を選定

* **医師は治験責任医師の経験者**

② 医師以外 (2名)

日本小児総合医療施設協議会
看護部長部会長、薬剤部長部会長

＜委員の遵守事項＞

1) 治験審査委員会委員を対象とした講習会の受講

* 既に受講経験がある場合は、不要

* 外部委員は、努力義務とする

2) **利益相反(COI)の管理**

「利益相反自己申告書」の提出

小児治験ネットワークの活動 —加盟施設での剤形変更調査結果—

剤形変更の調査結果

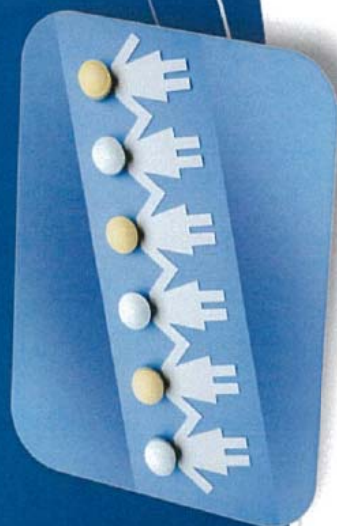
2011年9月

剤形変更の調査結果

小児治験ネットワーク

2011年6月に実施させて頂きました「剤形変更の調査」のアンケート結果について、ご報告させて頂きます。小児治験ネットワーク(以下、ネットワーク)に加盟して頂いている27施設中全施設からの結果を集計致しました。

全3ページ



散剤の予製

製品を10倍に薄めて調製している
件数が全予製の約7割

散剤の予製を調製している施設数は、アンケート回答施設数27に対して18の施設(67%)でした。散剤を希釈し予製を調製している薬剤の品目数

アンケート概要

対象施設 ネットワーク加盟施設
(全27施設)

研究所におけるフェロー等の 名称について

研究所におけるフェロー等の名称について

研究所勤務または勤務予定の非常勤職員研究職（研究所研究員）の中で、下記の条件に示した業績を有する者の中から部長等所属責任者が相応しいと推薦した者に、病院医師のキャリアパスとしてのフェローに相当する上級研究員、特任研究員、あるいは特任室長の名称を与えることとする。

上級研究員、特任研究員、特任室長に共通の条件

1. 名称のみで給与等勤務形態については変更しないこととする。
2. 下記の条件に該当する候補者については研究所の部長等所属責任者が推薦し、履歴書、業績目録（獲得研究費情報を含む）を添えて、理事長特任補佐室会議に提出、研究所長と会議メンバーによる審査の上、理事長が決定することとする。

上級研究員の条件

国立成育医療研究センター研究所に在籍する非常勤職員研究職（研究所研究員）の中で、次のいずれかの条件に合致し、部長等受け入れ責任者が承認したものを上級研究者とする。主として、国立成育医療研究センター内のキャリアパス（室長候補として **principal investigator** あるいはそれを目指す段階）として位置づけられる。

1. **Correspondence author**（単独でなくともよい）として執筆し、国立成育医療研究センターに所属することが明記された論文の中で、インパクトファクター（最新のもの）3以上の雑誌掲載論文、または、被引用回数20回以上の論文が2編以上。
2. **Top author** または **correspondence author**（いずれも単独でなくともよい）として執筆し、国立成育医療研究センターに所属することが明記された論文のインパクトファクター（最新のもの）合計が25以上、または被引用回数の合計が50回以上の場合。

特任研究員の条件

国立成育医療研究センター研究所に在籍あるいは在籍予定の非常勤職員研究職（研究所研究員）のうち、次のいずれかの条件に合致し、部長等受け入れ責任者が承認したものを特任研究員とする。原則として、特定の研究事業に従事する研究者に対する名称とする。

1. **Correspondence author**（単独でなくともよい）として執筆した論文の中で、インパクトファクター（最新のもの）5以上の雑誌掲載論文、または、被引用回数30回以上の論文が2編以上。
2. **Top author** または **correspondence author**（いずれも単独でなくともよい）として執筆した論文のインパクトファクター（最新のもの）合計が40以上、または被引用回数の合計が100回以上の場合。

特任室長の条件

上級研究員、特任研究員の中で、間接経費を含まない額として1000万円以上の研究費を研究代表者として獲得し、部長等受け入れ責任者が承認したものを研究費継続期間に限り、特任室長とする。

職務発明届出・審査状況一覧

職務発明新規申請分

No.	発明の名称	発明者・持分	所属	届出日	審査日	審査結果	承継	出願日	出願番号	出願人
1	(非公開)	千葉敏雄ほか2名	臨床研究センター	H23. 6. 22	H23. 6. 30	職務発明	承継			センター、企業
2	(非公開)	梨井 康ほか4名	RI管理室	H23. 10. 12	H23. 10. 19	職務発明	承継			センター、企業
3	(非公開)	山内淳司ほか4名	薬剤治療研究部	H23. 10. 31	H23. 11. 16	職務発明	承継			センター、企業
4	(非公開)	梨井 康ほか5名	RI管理室	H24. 1. 11	H24. 1. 13	継続審査				
5	(非公開)	梨井 康ほか5名	RI管理室	No. 4再審査	H24. 3. 28	職務発明	承継・譲渡			企業
6	(非公開)	絵野沢 伸ほか3名	臨床研究センター	H24. 1. 16	H24. 3. 28	職務発明	承継・譲渡			企業
7	(非公開)	千葉敏雄ほか3名	臨床研究センター	H24. 3. 1	H24. 3. 28	職務発明	承継			センター、企業
8	(非公開)	宮田一平ほか1名	生体防御系内科	H24. 3. 1	H24. 3. 28	職務発明	承継・譲渡		特願2012-058239	HS-TL0
9	(非公開)	阿久津英憲ほか4名	再生医療センター	H24. 3. 16	H24. 3. 28	継続審査				
10	(非公開)	阿久津英憲ほか4名	再生医療センター	H24. 3. 16	H24. 3. 28	継続審査				
11	(非公開)	阿久津英憲ほか4名	再生医療センター	H24. 3. 16	H24. 3. 28	継続審査				
12	(非公開)	浅原弘嗣ほか3名	システム発生・再生医学研究部	H24. 3. 23	H24. 3. 28	職務発明	承継			センター、企業
審査12件、職務発明新規認定8件										

見直し等申請

No.	発明の名称	発明者・持分	所属	届出日	審査日	審査結果	承継	出願日	出願番号	出願人
13	(非公開)	梅澤明弘ほか1名	再生医療センター		H23. 6. 30	PCT出願しない	承継・譲渡		特願2010-215828	HS-TL0
14	(非公開)	山内淳司ほか4名	薬剤治療研究部		H23. 11. 16	PCT出願しない	承継・譲渡		特願2010-281777	HS-TL0
15	(非公開)	千葉敏雄ほか2名	臨床研究センター		H24. 1. 13	継続審査			特願2006-292578	
16	(非公開)	梅澤明弘ほか1名	再生医療センター		H24. 1. 13	ノウハウ実施許諾契約 切り替え承認			特願2005-151237	センター、企業
17	(非公開)	緒方 勤	分子内分泌研究部		H24. 1. 13	権利化断念			特願2006-116082	HS-TL0
18	(非公開)	千葉敏雄ほか2名	臨床研究センター	No. 15再審査	H24. 3. 28	持分変更承認	承継		特願2006-292578	センター、国研、企業
審査6件										

倫理委員会・IRB開催状況一覧

倫理委員会・IRB開催状況一覧【平成23年度】

●倫理委員会

	開催日	備考
第1回	平成23年4月5日 開催	
第2回	平成23年4月26日 開催	
第3回	平成23年5月30日 開催	
第4回	平成23年6月24日 開催	
第5回	平成23年8月1日 開催	
第6回	平成23年8月31日 開催	
第7回	平成23年9月26日 開催	
第8回	平成23年11月1日 開催	
第9回	平成23年11月28日 開催	
第10回	平成23年12月26日 開催	
第11回	平成24年1月16日 開催	
第12回	平成24年2月1日 開催	
第13回	平成24年3月1日 開催	
第14回	平成24年3月30日 開催	
合計	14回 開催	

●IRB

	開催日	備考
第1回	平成23年4月21日 開催	
第2回	平成23年5月19日 開催	
第3回	平成23年6月16日 開催	
第4回	平成23年7月21日 開催	
第5回	平成23年9月22日 開催	
第6回	平成23年10月20日 開催	
第7回	平成23年11月17日 開催	
第8回	平成24年1月19日 開催	
第9回	平成24年2月16日 開催	
第10回	平成24年3月15日 開催	
合計	10回 開催	

臨床研究に関する倫理方針の 研修会受講状況

臨床研究に関する倫理方針（改訂）の研修会受講状況

(単位：人)

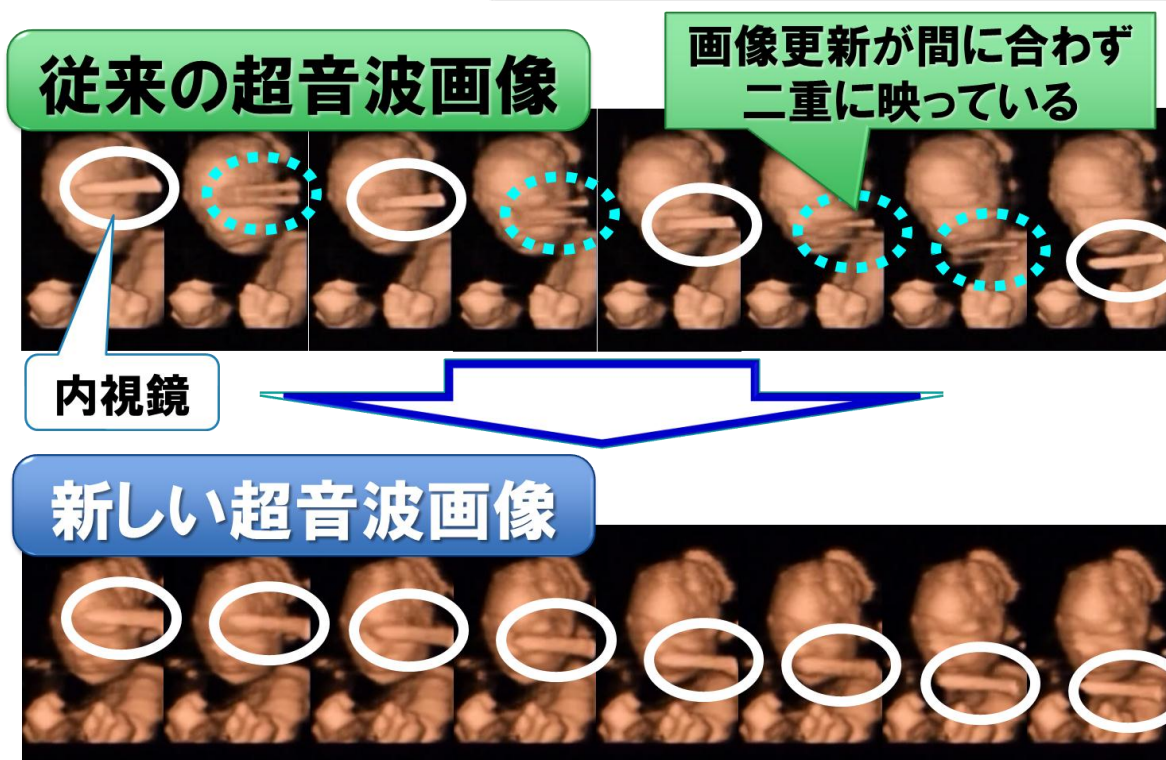
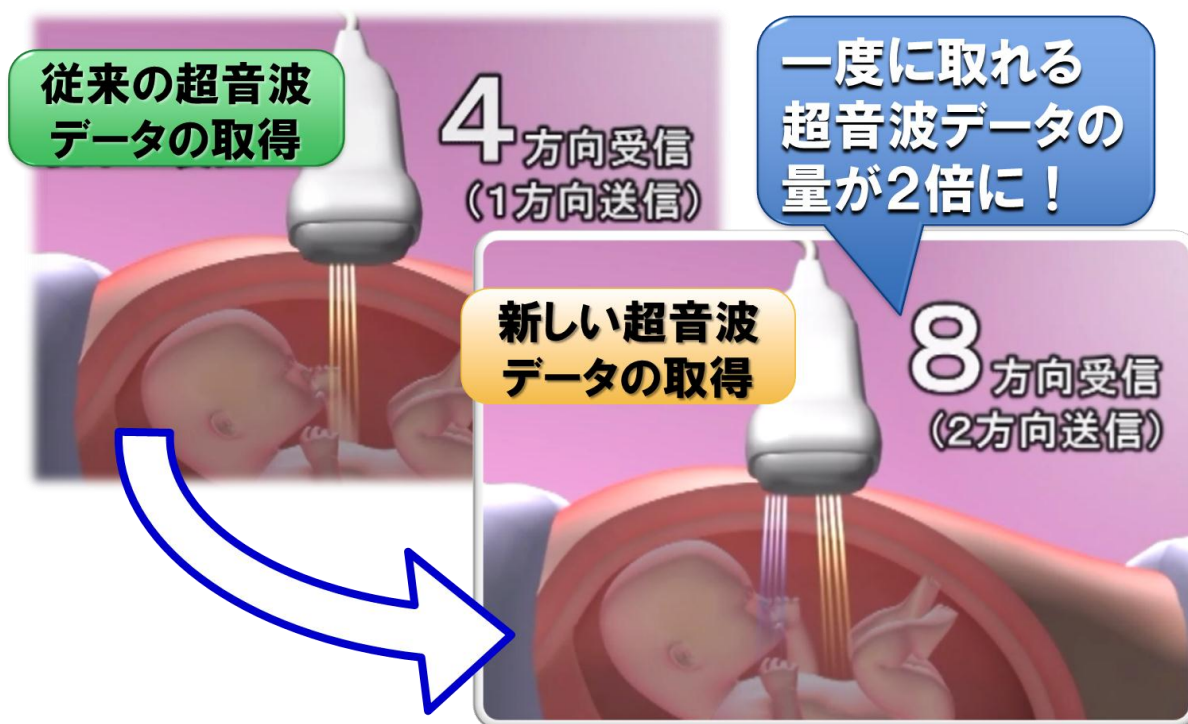
開催日	23年度 受講者数 (a)		22年度 受講者数 (b)	21年度 受講者数 (c)	H24.1.1現在 常勤数 (d)	受講割合 (%) (a+b+c)/d)
	H23.12.17					
常 勤 職 員	61		44			
医 師	42		33	88	176	92.6
その他	19		11			
非 常 勤 職 員	4		46			
他 施 設 等	0		32			
合 計	65		122			

注) 20年度以前の受講者については情報がなく、21～23年度のみ集計した。

超音波診断装置の高精細化 について

超音波診断装置の高精細化 補足資料

臨床研究センター 医療機器開発室 千葉敏雄



コマ落ちや二重に映ることなく滑らかな表示が可能

産科実践ガイド

国立成育医療センター

産科実践 ガイド

EBMに基づく
成育診療
サマリー

監修

北川道弘 国立成育医療センター病院 副院長

編集

左合治彦 国立成育医療センター病院 周産期診療部 部長

久保隆彦 国立成育医療センター病院 周産期診療部産科 医長

渡辺典芳 国立成育医療センター病院 周産期診療部産科 医長



診断と治療社

目 次

第1部 初期	1
1 妊娠初期の感染症検査	2
2 クアトロテスト, 羊水検査, 絨毛検査	6
3 多胎妊娠における頸管縫縮術	11
4 NT (Nuchal translucency)	14
5 子宮頸管長の計測と取り扱い	18
6 妊娠のリスク評価	21
第2部 中期	27
7 早産予知マーカーについて	28
8 IUGR の管理	31
9 妊娠中の自己血貯血	34
10 双胎妊娠の管理	38
11 過期妊娠の管理	43
12 妊娠高血圧症候群	46
13 血液型不適合妊娠 (Rh 不適合を中心に)	50
14 麻疹・水痘・風疹・ヘルペス	56
15 結核合併妊娠	60
16 喘息合併妊娠	63
17 甲状腺疾患合併妊娠	67
18 糖代謝異常	72
19 胎児超音波スクリーニング検査	78
20 母体の自己抗体が妊娠に影響する代表的疾患	83
21 円錐切除後妊娠に頸管縫縮術は必要か	88
22 子宮動脈塞栓術後妊娠の管理	90
23 絨毛羊膜炎と細菌性膣症の診断と治療	92
第3部 分娩期	97
24 前期破水の取り扱い	98
25 分娩時の GBS 感染予防	102
26 既往帝王切開妊娠の取り扱い (VBAC)	107
27 無痛分娩	110
28 分娩誘発法	115
29 HCV 感染 (分娩方法の選択)	119
30 分娩後の子宮収縮剤の使用	122
31 癒着胎盤	125

32 肺血栓・塞栓，深部静脈血栓の予防	129
33 骨盤位妊娠の管理	133
34 産科 DIC と産科大量出血	136
35 児頭骨盤不均衡	139
36 分娩誘発のポイント	142
37 分娩中に羊水混濁を認めた児の取り扱い	145
38 肩甲難産	149
39 会陰切開	152
第4部 薬 剤	155
40 低用量アスピリンの使用について	156
41 妊娠中のインフルエンザワクチン接種	160
42 授乳中の薬剤服用ガイドライン	163
43 分娩後の内服抗菌薬の取り扱い	168
44 早産における母体ステロイド投与	170
45 帝王切開時の予防的抗菌薬投与	173
46 適用外使用薬剤の使用	176
付 録 各種説明書および同意書ひな形	179
■ 羊水検査についての説明書	180
■ 羊水検査の同意書	182
■ NT について	183
■ 妊娠と細菌性膣症	185
■ 満期（妊娠 37 週以降）の前期破水の方へ	186
■ 帝王切開後経膣分娩同意書	187
■ HCV-RNA 検査でウイルスが検出された方へ	188
■ 前置胎盤	189
■ 外回転術の説明書	190
■ 骨盤位経膣分娩についての説明書	191
■ 医薬品適応外使用説明・同意書	192
■ 医薬品適応外使用同意書	194
索 引	195

成育すこやかジャーナル

センター

病院

研究所

臨床研究センター

[国立成育医療研究センター](#) > [メールマガジン](#) > 成育すこやかジャーナル

成育すこやかジャーナル

バックナンバー

No	配信日	内容
111	2012年5月17日	「タバコ産業の干渉を阻止して」次の世代をタバコから自由にしよう、放射線科の先生(医師)の仕事、11階東病棟の紹介
110	2012年4月19日	おちんちんのはなし、10周年を迎えたボランティア活動、新人医師の紹介
109	2012年3月29日	乳幼児期に血便をきたす病気、小児外科系病棟について、新人医師の紹介、トピックス
108	2012年2月9日	妊孕性は何故低下するのか？妊孕力を推測することはできるのでしょうか？、胎児診療科のご紹介、新人看護師を育てるための看護体制の強化について、新人医師の紹介、トピックス
107	2012年1月12日	年頭にあって、眼科の全身麻酔下検査について、NICU退院後の継続的支援について、新人医師の紹介、トピックス
106	2011年12月15日	「産科の新しい取り組み-漫画を使用した説明文書の作成」、母乳育児支援を通して考えること
105	2011年11月10日	麻酔について、「MFICUについて」、新任医師の紹介
104	2011年10月13日	小児の肝臓病と肝移植、「中間ケア病床って何？」、トピックス
103	2011年9月8日	今、家族、父親(父性)、小児・幼児の鼻炎と長期的な鼻水の対応、「病棟感染管理～こどもと自分を守る～」
102	2011年8月10日	こどもの花粉症、「歩行分析」、「救急の日」のイベントについて、新任医師の紹介、トピックス
101	2011年7月7日	授乳とくすり、「腎臓・リウマチ・膠原病」という科について、思春期病棟としての在宅移行について、新任医師の紹介
100	2011年6月9日	小児の超音波検査、小児集中治療室「PICU」とは？、産科遺伝外来について、新任医師の紹介、トピックス
99	2011年5月19日	取るべきか取らざるべきかー水いぼの話ー、タバコ規制枠組条約(FCTC)を知ろう、思春期の看護について～思春期の子ども達と一緒に歩むパートナーとして～、新任医師の紹介
98	2011年4月21日	ご家族の皆様へ、子供の生活習慣病について、NICUの看護について、「看護の日」イベントのご案内、新任医師の紹介、トピックス
97	2011年3月10日	ピーナッツ、節分の豆、「子どもと病院へくる保護者の方へ」、腫瘍科フォローアップ外来開設について

児童虐待防止医療ネットワーク
構築に対する経済的支援
に関しての要望

平成23年10月21日

厚生労働大臣

小宮山 洋子 殿

日本小児総合医療施設協議会

会長 加藤 達夫



要望書

児童虐待防止医療ネットワーク構築に対する経済的支援に関する要望

近年、児童虐待によって命を落とす子どもに関する報道が後を絶たず、厚生労働省の検証でも年間100名以上の子どもが死亡し、その40%程度が乳児、75%程度が3歳未満であり、頭部外傷やネグレクトによる死亡が多いことが明らかとなってきた。この年齢分布および虐待の種類は医療機関で発見される児童虐待と近似しており、医療機関での虐待の早期発見が児童虐待による死亡を減少させる可能性が高いことが示唆されている。また、2009年に改正された「児童虐待の防止等に関する法律」においても、国及び地方公共団体に対して、虐待の早期発見及び迅速かつ適切な介入等を行うための医療体制の整備等に努めることが求められている。

病院に属する医師といえども個人では、虐待を受けていることを訴える力のない乳幼児の親の虚偽を見抜いて児童虐待を発見し、虐待に関する医学的判断を行い、地域と連携することは容易なことではなく、それを補うためには児童虐待対応院内組織による虐待判断が欠かせず、海外では早くからそのような院内組織が形成され、効果を上げている。また、昨年施行された改正臓器移植法の「虐待を受けた児童から臓器が移植されないように」（同法附則）との規定に基づき、臓器提供施設の条件として児童虐待対応の院内組織が整備されていることが必要とガイドラインに示され、本邦での院内組織の整備の必要性が益々増加してきていると言える。

しかしながら、現在、児童虐待の早期発見において重要な役割を担う小児科

専門研修施設および救急指定病院のうち、院内組織を持つ医療機関は20.2%に過ぎない。加えて、そのような組織を持つ病院が診療所や中小の病院からの相談を受けたり、対象の子どもを紹介を受ける等の医療連携システムや保育所などとの連携システムを先駆的に構築している北九州市では、そのシステムが有効であることが紹介されているが、そのようなシステムが構築されている自治体はごく少数である。

その背景として、そもそも小児科医療現場が多忙であることに加え、院内組織を整備して児童虐待に対応したり、地域と連携するためには、多くの人的資源と時間が必要とされる上に、訴訟の危険などの心的ストレスが強い状況に置かれるにもかかわらず、経済的バックアップが全くないことがあげられる。

日本小児総合医療施設協議会は、我々のような小児総合医療施設が児童虐待に対応する院内組織を持つ必要性を認識しており、今回、改正臓器移植法のガイドラインにおいて、小児の脳死下臓器提供が可能な施設の類型の一つとして、当協議会会員施設が位置づけられたこともあり、協議会としても早急に対応しなくてはならないと認識している。しかし一方で、これまでに先駆的に院内組織を構築してきた協議会会員施設では、その対応が経済的な圧迫となっており、このままでは今後の発展が期待できないという懸念も出てきている。児童虐待を早期に発見して子どもを死亡や心身の後遺症から守ることは社会的コストの低下にもつながることであり、小児医療の重要な課題であるが、経済的問題によってそれが推進できないことは現世代および次世代の社会に禍根を残す結果となる危険性が高い。

これらの現状を改善して子どもを虐待死や重症後遺症から守るためには、児童虐待対応の院内組織整備と整備された病院を拠点とした地域システムを構築できるような経済的支援が不可欠である。この度、貴省雇用均等児童家庭局にて、児童虐待防止医療ネットワーク事業として、中核的な病院に地域の医療機関への研修・助言を行うコーディネーターを採用するための補助制度を企画しているとのことであり、医療システム構築の第一歩として、歓迎する。是非とも実現し、医療機関のこれ以上の疲弊を防ぎつつ、子どもを守るシステムを構築できるような施策を更に進めていくように要望する。

妊娠と薬情報センター活動報告

2011年度 妊娠と薬情報センター活動報告

①相談業務

業務内容	件数
電話問合せ	2324
回答件数	1064
妊娠転帰ハガキ	発送792 受領747

←成育外来・電話での回答・主治医へ郵送・拠点病院外来(下記③の新規開設病院外来も含む)の合計件数

←下記②の登録調査対象者も含む

②登録調査業務

登録対象	件数
インフル	6
POEM	112
相談後妊娠	9

③新規拠点病院開設

開設月	施設名
4月	前橋赤十字病院
4月	横浜市立大学附属病院
6月	埼玉医科大学病院
7月	千葉大学医学部附属病院

④妊婦・授乳婦専門薬剤師研修

於: 妊娠と薬情報センター

研修薬剤師数 17名	前期日程	6/13～6/17	6名
	後期日程	11/28～12/2	5名
		12/5～12/9	6名

⑤2011年度成育ステートメント検討委員会

2011/7/6 於: 研究所セミナールーム21

* 別紙資料参照 *

出席者 計18名	厚生労働省医薬食品局安全対策課	2名
	外部委員	4名
	内部委員	12名

⑥妊娠と薬情報センター開設6周年記念フォーラム

2011/11/6 10:30～16:30

於: 京王プラザホテル「エミネンスホール」

* 別紙プログラム参照 *

テーマ		セミナー2題	講師2名
精神神経系薬剤のトレンドと安全性		シンポジウム3題	演者3名
出席者 408名	内訳: 医師79名、薬剤師238名、その他72名、講師・関係者等19名 *薬剤師数238には製薬会社社員として申込の薬剤師は含んでいない		

主な広報媒体は当センターHP、メーリングリスト、DMなど。

認定単位等の交付

日本医師会生涯教育制度認定単位(5単位)	55名
日本薬剤師研修センター認定単位(3単位)	セットにして交付241名
日本病院薬剤師会「妊婦・授乳婦に関する講習単位」参加証(2.25単位)	

⑦妊娠と薬情報センター業務研修会

2012/2/10～11-12

於: 研究所セミナールーム21、院内講堂

2012年度新規開設拠点病院(下記3施設)を含めた業務研修

京都府立医科大学附属病院、神戸大学医学部附属病院、新潟大学医歯学総合病院

出席者93名		
内訳	講師 17 名	出席者76名(うち厚労省より 1名)

* 別紙プログラム参照 *

各日の出席者 (カッコ内は講師の人数、出席者数に含む)	
2月10日	40名 (6)
2月11日	85名 (9)
2月12日	72名 (3)

○修了証書授与者 37名 (医師 21名、 薬剤師16名)

2011 年度 成育ステートメント検討委員会 議事要旨

日時： 2011 年 7 月 6 日(水) 18:00～20:00

場所： 国立成育医療研究センター 研究所セミナールーム 21

出席者：村島温子、渡辺央美、小高賢一、中島研、青木宏明、伊藤直樹、和田友香、三戸麻子、坂口佐知、中村秀文、石川洋一、北川浩明、林昌洋、俵木登美子、岡本一人、井上隆弘、簾貴士、石井真理子(書記) (順不同、敬称略) 18 名

配付資料

- ① 妊娠と薬情報センター業務報告 ～2011 年 6 月まで
- ② 資料 1: 調査結果報告書(ニフェジピン)
- ③ 資料 2: 調査結果報告書(ラベタロール)
- ④ 成育サマリー (ニフェジピン・ラベタロール)
- ⑤ 参考資料 1-1, 1-2, 1-3, 2-1, 2-2: 要望書
- ⑥ 医薬品添付文書 アダラート CR 錠
- ⑦ 医薬品添付文書 トランデート錠
- ⑧ 医薬品添付文書 リウマトレックス
- ⑨ メトトレキサート診療ガイドライン 2011 年版
- ⑩ 妊娠と薬情報センター開設 6 周年記念フォーラム 案内

議事要旨:

1. 厚生労働省 医薬食品局安全対策課 俵木登美子氏からご挨拶いただいた。
2. 報告事項

渡辺副センター長より「妊娠と薬情報センター事業」業務件数について報告があり、2011 年度より横浜市立大学附属病院、前橋赤十字病院、埼玉医科大学病院、千葉大学医学部附属病院が協力病院として新たに加わったことが説明された。

3. ニフェジピンならびにラベタロールの医薬品添付文書使用上の注意 (妊婦・産婦への投与の項)について医薬品医療機器総合機構井上隆弘氏より、配付資料② 資料 1: 調査結果報告書(ニフェジピン)と③ 資料 2: 調査結果報告書(ラベタロール)に沿って説明があった。

(1)ニフェジピン(Ca 拮抗剤)

・学会ならびに製薬企業からの要望通り、妊娠 20 週以降の妊産婦への投与は禁忌解除となった。妊娠 20 週未満の投与が禁忌という制限については、妊娠 20 週未満に使用することでリスクが上昇するような危険性が新たに示されたわけではないことが確認された。また妊娠と薬情報センターの成育サマリーの評価ならびにカウンセリング方針においては、これまでと変更がな

いことが了承された。ただしこれまでの成育サマリーの添付文書の文言に関する記載については、添付文書改訂に伴って記載を変更することとした。

- ・ニフェジピン製剤は剤型（長時間作用型、短時間作用型）にかかわらず、一律に同一の記載内容となったが、急激かつ過度な血圧低下防止のためには、薬学的見知から剤型ごとに記載内容を検討した方が良かったのではないかと議論された。しかし添付文書上に長時間作用型製剤の使用を推奨する記載がなされ、十分注意喚起されており、問題なしとされた。

- ・今回、ニフェジピン製剤が妊娠中の禁忌が解除されたが、他の Ca 拮抗剤もこれまでのリスク評価と変更なく、ニフェジピン同様に安全に使用できる可能性があることが確認された。将来的には、高血圧治療に頻用される薬剤（アムロジピン等）も「妊婦禁忌」が解除されることも期待された。

(2) ラベタロール ($\alpha\beta$ 遮断性降圧剤)

- ・添付文書の改訂について委員会出席者から高い評価を得た。

- ・胎児および新生児に血圧低下、徐脈等の異常に関する注意書きに関して、厳しい表現ではないかという意見が出たが、改訂前において産科医や小児科医の専門委員との協議の上、注意喚起が必要と判断され、記載される事となった旨が医薬品医療機器総合機構 井上隆弘氏より説明された。

4. その他

- ・メトトレキサートを使用した際の避妊期間について、添付文書（1 月経周期）とガイドライン（3 ヶ月）で見解が違ふ旨ならびにその根拠について村島センター長より問題提議された。ガイドライン等で提示されている避妊期間の根拠は乏しいものの、海外のガイドラインで記載されているという事実を勘案すると添付文書の記載変更までに至る道のりは厳しい。しかし、特に男性の避妊期間 3 ヶ月の根拠は乏しく、出席者からも疑問の声が多数あがり、公共的な立場にある妊娠と薬情報センター等で根拠をもって情報発信していく必要があるとされた。

- ・2011 年 11 月 6 日 妊娠と薬情報センター開設 6 周年記念フォーラムでは、「精神神経系薬剤のトレンドと安全性」について開催する予定であることが紹介された。

国立成育医療研究センター主催
妊娠と薬情報センター開設6周年記念フォーラム

日 時 : 平成23年11月6日(日) 10:30~16:30
場 所 : 京王プラザホテル「エミネンスホール」 (南館5階)
〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1 TEL 03-3344-0111(代表)
会場整理費 : 6,000円 (軽食代を含む)
各認定単位 : 日本医師会生涯教育制度認定単位 (5単位)
日本薬剤師研修センター認定単位 (3単位)
日本病院薬剤師会 妊婦・授乳婦専門薬剤師講習単位 (2.25単位)

●開会の辞 (10:30~) 国立成育医療研究センター総長 加藤 達夫
●挨拶 厚生労働省医薬食品局安全対策課長 俵木 登美子

●セミナー「薬物治療のトレンドと妊娠・授乳中の安全性」(11:00~12:40)

座長: 国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター副センター長 渡邊 央美

セミナー1 「女性のうつ病の特徴」

順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 メンタルクリニック教授
鈴木 利人

セミナー2 (ランチョン) 「抗うつ薬が胎児、新生児に及ぼす影響」

東京大学医学部小児科
妊娠と薬情報センター

伊藤 直樹

●シンポジウム (13:00~16:20)

座長: 国立成育医療研究センター 母性医療診療部長 妊娠と薬情報センター長 村島 温子

【シンポジウム1】*同時通訳あり

「OTIS (北米催奇形性情報サービス): 歴史と展望」

カリフォルニア大学サンディエゴ校 医学部小児科教授
Christina D. Chambers

【シンポジウム2】

「最新の双極性障害の治療—情動安定化薬(抗てんかん薬)の使い方—」

千葉大学大学院 医学研究院精神医学准教授
渡邊 博幸

【シンポジウム3】

「授乳期の精神神経系薬剤使用: その安全性と問題点」

トロント大学・トロント小児病院 小児科教授
伊藤 真也

~ディスカッション~

●閉会の辞(16:20~)

後援団体: 一般社団法人日本総合病院精神医学会 一般社団法人日本臨床精神神経薬理学会
社団法人日本病院薬剤師会 社団法人日本医師会 社団法人日本薬剤師会 社団法人日本精神神経学会

主 催: 独立行政法人国立成育医療研究センター

問合せ先: 妊娠と薬情報センター開設6周年記念フォーラム事務局

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1 TEL 03-5494-7845

*上記プログラム内容につきましては変更となる場合がございます

●参加お申し込みは当センターホームページよりお願い致します <http://www.ncchd.go.jp/kusuri/>

第6回 妊娠と薬情報センター業務研修会

2012年2月10日(金)(薬剤師限定)

9:00-9:10	開会の辞	妊娠と薬情報センター・国立成育医療研究センター 薬剤部 小高 賢一
9:10-9:50	産科医療の基礎知識	妊娠と薬情報センター・国立成育医療研究センター 周産期センター 産科 青木 宏明
9:50-10:30	研修ガイダンス	妊娠と薬情報センター・国立成育医療研究センター 薬剤部 中島 研
10:30-10:40	休憩	
10:40-11:10	有機溶剤、放射線	筑波大学附属病院 薬剤部 小西 久美
11:10-11:40	アルコール・タバコ	長良医療センター 薬剤科 野村 美枝
11:40-13:00	昼食休憩	
13:00-13:30	ワクチン	岩手医科大学附属病院 薬剤部 細川 佳代子
13:30-14:00	経口避妊薬	名古屋第一赤十字病院 薬剤部 山田 総

14:00-14:10 休憩

14:10-14:40 カウンセリング

妊娠と薬情報センター・国立成育医療研究センター 薬剤部
石井 真理子

14:40-15:40 模擬演習

妊娠と薬情報センター・国立成育医療研究センター 薬剤部
中島 研・石井 真理子・八鍬 奈穂

15:40-16:10 コーヒーブレイク

16:10-17:00 症例検討

国立成育医療研究センター 薬剤部
八鍬 奈穂
奈良県立医科大学附属病院 薬剤部
錦織 芽久美

第6回 妊娠と薬情報センター業務研修会

2012年2月11日(土)

9:00-9:10 開会の辞

妊娠と薬情報センター・国立成育医療研究センター 母性医療診療部
村島 温子

9:10-9:50 先天異常の疫学、分類と診断、染色体異常、出生前診断

国立成育医療研究センター 器官病態系内科部 遺伝診療科
小崎 里華

9:50-10:30 抗てんかん薬と妊娠

むさしの国分寺クリニック
加藤 昌明

10:30-10:40 休憩

10:40-11:20 日本の医薬品添付文書の現状と今後について

筑波大学附属病院 産科・婦人科
濱田 洋実

11:20-12:00 口唇裂・口蓋裂の最近の治療について

国立成育医療研究センター 感覚器・形態外科
金子 剛

12:00-13:30 昼食&施設紹介

13:30-14:10 妊娠・授乳中の服薬に関する疫学研究報告の見方

妊娠と薬情報センター・東京大学大学院医学系研究科
伊藤 直樹

14:10-14:50 幼若動物を用いた毒性試験

第一三共株式会社 安全性研究所
下村 和裕

14:50-15:30 腎・高血圧疾患合併妊娠と薬剤

大阪府立母子保健総合医療センター 母性内科
中西 功

15:30-16:00 コーヒーブレイク

16:00-16:40 授乳と薬剤

横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合周産期母子医療センター

関 和男

16:40-17:20 胎児毒性・新生児薬物離脱症候群

京都医療センター 小児科

河田 興

18:30- 情報交換会

第6回 妊娠と薬情報センター業務研修会
2012年2月12日(日)

9:00-10:00	業務連絡会議	
10:00-10:10	休憩	
10:10-10:40	妊娠を考慮した甲状腺疾患の薬物療法	妊娠と薬情報センター・国立成育医療研究センター 母性医療診療部 代謝・内分泌内科 荒田 尚子
10:40-11:10	リウマチ薬剤におけるトピックス	妊娠と薬情報センター・国立成育医療研究センター 母性医療診療部 村島 温子
11:10-11:20	休憩	
11:20-12:00	心理面に配慮した医学的情報の伝え方～遺伝カウンセラーの立場から～	木場公園クリニック 田村 智英子
12:00-13:00	昼食休憩 ランチョン	
13:00-14:30	模擬演習	医師:村島 温子・山口 晃史・渡邊 央美・伊藤 直樹・青木 宏明・坂口 佐知・三戸 麻子 薬剤師:中島 研・石井 真理子・八畝 奈穂
14:30-15:00	コーヒーブレイク	
15:00-15:20	研修修了書授与	妊娠と薬情報センター・国立成育医療研究センター 母性医療診療部 村島 温子
15:20	閉会の辞	妊娠と薬情報センター 渡邊 央美

センター

病院

研究所

厚生労働省事業 妊娠と薬情報センター

お問い合わせ：03-5494-7845

妊娠と薬情報センター
TOPページ

妊娠と薬情報センター
概要

相談内容・方法

ママのための
お薬情報

調査ご協力をお願い

医療関係者向け情報

○ POEM Study 中間解析結果報告

POEM study 中間報告

以下のPDFをダウンロードしてご利用ください。



POEM Study 中間報告

2012年1月15日 13:00～15:00

東京国際フォーラムにてPOEM study 中間報告会を開催します。

参加希望の方は boseinaika@ncchd.go.jp にご連絡ください

妊娠初期のチアマゾール投与に関する注意喚起について

[妊娠初期のチアマゾール投与に関する注意喚起について\(日本甲状腺学会サイトへリンク\)](#)

これから妊娠されるバセドウ病の患者さんへ

[「妊娠初期に内服した抗甲状腺薬が赤ちゃんに与える影響の調査」\(POEMスタディ\)とその中間結果から今後妊娠する際のご注意 \(患者用説明文\)\(日本甲状腺学会サイトへリンク\)](#)

安全性情報 チアマゾールによる先天異常について

[安全性情報 チアマゾールによる先天異常について\(中外製薬サイトへリンク\)](#)

妊娠初期のチアマゾール投与 に関する注意喚起について

センター

病院

研究所

厚生労働省事業 妊娠と薬情報センター

お問い合わせ：03-5494-7845

妊娠と薬情報センター
TOPページ

妊娠と薬情報センター
概要

相談内容・方法

ママのための
お薬情報

調査ご協力をお願い

医療関係者向け情報

○ POEM Study 中間解析結果報告

POEM study 中間報告

以下のPDFをダウンロードしてご利用ください。



POEM Study 中間報告

2012年1月15日 13:00～15:00

東京国際フォーラムにてPOEM study 中間報告会を開催します。

参加希望の方は boseinaika@ncchd.go.jp にご連絡ください

妊娠初期のチアマゾール投与に関する注意喚起について

[妊娠初期のチアマゾール投与に関する注意喚起について\(日本甲状腺学会サイトへリンク\)](#)

これから妊娠されるバセドウ病の患者さんへ

[「妊娠初期に内服した抗甲状腺薬が赤ちゃんに与える影響の調査」\(POEMスタディ\)とその中間結果から今後妊娠する際のご注意 \(患者用説明文\)\(日本甲状腺学会サイトへリンク\)](#)

安全性情報 チアマゾールによる先天異常について

[安全性情報 チアマゾールによる先天異常について\(中外製薬サイトへリンク\)](#)